

令和6年産 コメ通信

第8号（令和6年7月26日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

出穂早い！！適切な水管理と病害虫防除を！

1 気象経過と生育状況

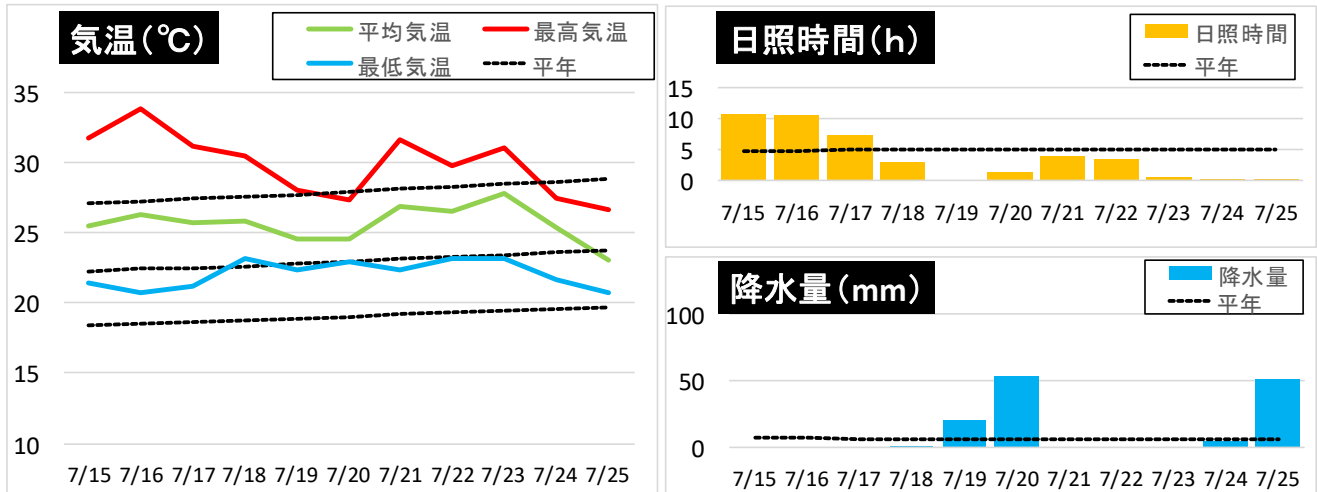


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【気象経過】

○7月15～24日の気温は、平年より高くなりました。日照時間は平年より少なく、降水量は平年より多くなりました（図1）。特に7月25日から26日にかけては、強い降雨があり、河川等の増水により一部地域では浸水・冠水したほ場が見られました。

【生育状況】

- 7月25日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は平年と比べて、草丈は長く、茎数と葉数は多く、葉色は濃くなっています（表1）。
- 多くの定点ほ場で減数分裂期を過ぎており、数地点で走り穂も見られました。
- 日平均気温から算出したあきたこまちの出穂期は、中苗の5月20日植えて7月31日頃（平年：8月5日頃）と平年より5～6日程度早まる予測となっています（表2）。

表1 定点調査結果（7月25日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	83.7	517	12.9	43.3
平年	75.3	502	12.6	37.8
前年	82.3	444	12.6	40.1
平年比	111%	103%	+0.3	115%
前年比	102%	117%	+0.3	108%

※平年は過去10か年の平均値を示す。

※葉色はSPAD-502で測定した。

表2 あきたこまち（中苗）の出穂期の予測
（アメダス鷹巣）

田植日	出穂期（平年値）
5月15日	7月28日（8月3日）
5月20日	7月31日（8月5日）
5月25日	8月2日（8月7日）
5月30日	8月5日（8月10日）

※7月26日以降は平年値で計算した。

※出穂期：全茎数の40～50%が出穂した日のこと。穂が少しでも出ていれば出穂とする。

2 当面の水管理

- 仙台管区気象台の1か月予報（7月25日発表）によると、向こう1か月の東北地方日本海側の天気は、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されています。
- 出穂期までは間断かん水が基本となります。出穂期から開花期は水を多く必要とする時期なので、出穂後10日間は湛水状態にして、水を切らさないようにしてください。
- 湛水管理をせず中干しのような状態で高温登熟すると、白未熟粒やくさび米等の被害粒の発生が多くなります。
- 気温が30℃を超えるような暑い日は、用水を十分に確保できる地域ではかけ流しかん水等により地温を下げて、根の機能減退を防止しましょう。
- フェーン現象などで乾燥した風が強く吹く日は湛水状態を保ち、水分蒸散による稲体の消耗を軽減します。

★カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂期3週間後まで湛水管理を厳守し、カドミウムの吸収を抑制してください。

3 病害虫防除対策 ～防除のタイミングに注意！～

※飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください。

【いもち病】

- 管内でも葉いもち病の発生が確認されています。BLASTAM（アメダス）の判定では、6月下旬から7月上旬にかけて、管内で感染好適日が数回観測されています。本田初期防除の効果が切れていることから、今後の発生に注意してほ場を見回ってください。
- 大雨により冠水や浸水したほ場では、稲体の抵抗力が低下して感染しやすい状態となっています。治療・予防剤のノンブラスやブラシン、予防剤のビームで防除に努めます。
- 7月下旬以降に上位葉で葉いもちの発生がある場合は、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤/サンブラス粒剤のいずれかを散布するか、出穂直前にトライフロアブルかビーム剤と穂揃期にトライフロアブルかラブサイド剤を茎葉散布します。さらに、必要に応じて傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行い、穂いもちを防ぎます。
- 本年は出穂期が平年より早まるほ場が多くなる予想となっていますので、防除時期を逃さないよう注意しましょう。
- ラブサイド剤（フサライド）を含む農薬の総使用回数は3回以内となっています。

表3 冠水・浸水した場合のいもち病治療・予防剤

種類	農薬名	農薬の種類	粉剤DL	ゾル	フロアブル	散布量又は希釈倍率 [散布液量]
治療・予防	ノンブラス	トリシクラゾール・フェリムゾン剤	○		○	粉剤DL：3～4 kg/10a ゾル・フロアブル： 1,000倍 [100～150L]
	ブラシン	フェリムゾン・フサライド剤	○		○	
予防	ビーム	トリシクラゾール	○	○		

注意事項

- ア 茎葉散布剤の防除効果は7日程度であるが、降雨が多いときや病勢が激しいときは薬剤の散布感覚を短くする。
- イ フサライド、トリシクラゾールの本田での総使用回数はそれぞれ3回である。

【斑点米カメムシ類】

- 病害虫防除所から7月17日に注意報が発表されています。このため、薬剤防除は出穂期10日後頃と同24日後頃の2回散布体系を基本とします。
- 1回目の防除ではスタークル/アルバリン剤を出穂期10日後頃に畦畔を含めて茎葉散布し、その後7日以内に農道や畦畔の草刈りを行います。2回目の防除は出穂期24日後頃にキラップ剤(使用時期は収穫14日前まで)またはエクシード剤(同7日前まで)を、畦畔を含めて茎葉散布します(表3)。
- 法面や休耕田等の雑草地は、収穫2週間前までは草刈りをしないでください。
- 近隣に水稻以外の作物(野菜等)がある場合や養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前に情報交換を密にして散布を実施してください。

表4 カメムシ類の防除に使用する薬剤

	薬剤名	希釈倍数	散布量 (/10 a)	散布時期
1回目	スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL	—	3 kg	出穂期 10日後頃
	スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10	1,000倍	150 L	
2回目	キラップ粉剤DL エクシード粉剤DL	—	3 kg	出穂期 24日後頃
	キラップフロアブル エクシードフロアブル	2,000倍	150 L	

4 冠水・浸水被害のあったほ場における管理

- 冠水・浸水した場合には、速やかに排水を図ります。
- 冠水・浸水した稲体は水分調節や肥料吸収等の機能が低下していることから、田面の過度の乾燥に注意してください。
- ほ場内への漂着物等は、収穫時の事故につながるため、ほ場外へ除去してください。
- 畦畔や用水路等の点検・修繕を行い、適切な水管理に努めます。
- 作業を行う際は、熱中症対策を十分に行い、無理のない作業を行ってください。

秋田米栽培情報発信LINE始めました！



水稻栽培に関する情報をリアルタイムで発信します。

- 秋田県内の水稻生育状況
- 水稻・大豆の技術情報
- 異常気象対策
- その他、秋田米に関する情報

など



友達追加は
こちらから

令和6年度農薬危害防止運動(令和6年6月1日から8月31日まで)

近年、全国で農薬の使用に伴う周辺住民等に対する被害事例が発生しています。農薬の使用時は周辺への飛散防止に努めるとともに、農薬ラベルによる使用基準(単位面積あたりの使用量や希釈倍率等)の確認と使用履歴の記帳を徹底しましょう。

～農業機械使用時には、安全に十分注意して作業を行ってください～

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで 次回発行は8月下旬～